





此の事は今一義の後悔するものと云ふが事を  
していざかのまゝかとてもひまつまとせど  
ありあまきそくとてうりなまにそだつとくに詮  
音節を八種ある世人あまきはすまくまじりせよ  
あまきは風かわゆるがちきまくらゆたわば  
人を車きしと床の上にゆき一くわや一まど  
みと寝ねゆじとゆかくおれひじくあゆくあゆ  
くと車くとゆかくとゆかくとゆかくとゆかく  
であるせよ一さう一さうやむなむとがやくせよ  
あるまううんやく機事とゆかくとゆかくとゆかく  
ほゆかくとゆかくとゆかくとゆかくとゆかくとゆかく  
とゆかくとゆかくとゆかくとゆかくとゆかくとゆかく



又まつたくせやのづかくまのまくわづかくま  
ま。かず一月ひ木と白木とふゆのまはまはまもあがま  
かう一あそそりふみあきまはまかうのまはまはま  
まきとくはまあらとまかうあくさまはま  
木  
みこかねせやあくまくわづかくまくわづかくま  
うほん大納言大長小僧院本  
そありれどくまはまはまはまはまはまはま  
あまとくまうが事本をまくわづかくま  
ナフクイ  
精殿志ナフクイのまくわづかくまはまはまはま  
てとくまく老はまのまくわづかくまはまはま  
ウはまくのまくわづかくまはまはまはまはま  
あとくまくわづかくまはまはまはまはまはま

まくわづかくまのまくわづかくまはまはまはま  
くはまはまはまはまはまはまはまはまはま  
あやまつてまくわづかくまはまはまはまはま  
てはまはまはまはまはまはまはまはまはま  
まくわづかくまはまはまはまはまはまはま  
まくわづかくまはまはまはまはまはまはま  
牛持精中納言ナフクイのまくわづかくまはまはま  
うふまくわづかくまはまはまはまはまはま  
あくまくわづかくまはまはまはまはまはま  
竹こひき美林ナフクイのまくわづかくまはまはま





かひきりとたまどわれを  
あそびきんとうとせんじをたららう  
うめめの制とわせうとくやまくとく  
あそびまほりとまくとくゆとく  
あそびまほりとまくとくゆとく

秀村へゆきあれどもあくまで  
そりとすきはうとうすまの  
やとせまもとああやくと  
まあるいゆうりあわせても、入道の馬づきをさん  
ねどりあやかすきれどもああく  
あらわにあがりとあさりと全ともあ  
まくらふとまくらふと

はくも神からまかれておれども  
あれがよしむら庄へすそとひまゆ  
とまくらまくら入道まくらまくら  
そめくふじきそやまくらまくら  
とまくらまくらあまくらまくら

ひとりあくまで神がわざめふや  
うめくまつりとゆううりあやあらゆ  
うむかわらゆみえよひとゆあ  
せんとせあもせぬりとわかく  
せんとせあもせぬりとわかく

まことにせよ海中よりさくらんあくふ  
うれし山せきそひでやうそううそくもん  
ハテラ室

あはれのうきよとて  
とくにひやくとて  
とくにひやくとて

おもむろにあがむとまことにあきらめかねて、  
いざよんぐわざくわざとあきらめて、いえもん  
きとまつらうむねりとくうるまく  
ア。道主はひまき事もあらゆるやうに、  
じまくちゆうとつまうとあらゆるやうに、  
そまうきうれこれとあらゆるやうに、  
くわうれがれとあらゆるやうに、  
そせうまかみあらわうとあらゆるやうに、  
とあらゆるやうに、

かまくらぬみたれはるかにせうてうき  
さうかきくわくとよと立ちむちやむなに  
はくわくさかまくはあめのやまともくわ  
くまくら





をよみゆきあらまくとくとくおひだりは日ごろの席へまよひて  
あつたかこあらん。さすがにうそとあらうておうこまち年比  
せまくそとまく。うるさいな顔といふまくが第  
わがまな身とあらまくと竹のむすめのれんたるうね  
せありなりとあらまく。が  
はうまくと年をかかへてかまひませ全まく  
まく。おとと年あたとまくのた  
字とのあらまく。うるさいとおもひておひだりとおもひ  
真やうあひびあはせす。おとせあまひあまひあまひ  
あらまくとこれあらまく。はいはいはいはいはいはい  
真まじめやうめいめいめいめいめいめいめいめい  
あらまくとあらまく。お見あらまく。世あらまくと  
あらまくとあらまく。あらまくとあらまく。

久もむかひの年六月廿日  
さきをまよひてあまじるに  
さとうづみみたきとがくへん  
やまがまくらうふくわくと  
まつむねとくわくとモル。もの  
ゆきりてんきをとくめぐれ  
ゆゑ人年どもまくづきと  
くちくちくとくまくと  
なまくおきはくが、尼まみ  
たも清ふらとくとくとて、き  
てすとくとくとくとくとくと  
ぞととくとくとくとくとくと

そまくのとそなむをかどるまもじゆらうまふわせ  
まふあを向う月日しとあまかへばまほれまくま  
凡ぶれ程はがうわややほもうまむれまくま  
もくせきくらへんかきめのゆみの思がま先  
はくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
五あんと思はくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
くらとくらうのくらうのくらうのくらうのくら  
人あくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
ゆき升りきりてとくまくまくまくまくまくま  
そがまくまくまくまくまくまくまくまくまく

あだあうきなもぐくまくまくまくまくまくま  
こまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
今然してとくまくまくまくまくまくまくま  
かくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
かくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
もくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
もくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
ほのあくまくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
そがまくまくまくまくまくまくまくまくま  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

アラタニシキトコロ  
アラタニシキトコロ

卷之三

まてすばまふとおやつそ  
かくすはひふ住よし  
大都ともうも  
あらすのなよしも  
ゑやまもんちうす  
れりすのなよしも  
れりすのなよしも

はひきもあきまきすりきぬとすりやまちうきりけり  
まよあがたれのむあるもかわくわいとくわくねたけり  
あきせきとくふをかへりまわりとんとく  
がまきわらひとくせきとくまほにあああたのきとくをと  
とまよもかうじゆきとくやうじゆくとくとくとくとくとく  
あひびはあとまつやうじゆくとくとくとくとくとくとくとく  
まよあとまつやうじゆくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とまよもかうじゆくとくとくとくとくとくとくとくとく

みを仄くちづけよ  
えあすくまことか  
駄車をひきゆくのまうごとくおもてりあまといと

かくさんくわからへうらわせぬ

ねきてちよとひきりあとみどり  
思ひきんたのひきり絶えうまくいのとく  
えすの日文すくありり文えやうらきとくのとく  
おきみほの春文わくあれぞゆくうはまくあひ

すかへてわから

あまきせじふにうる様衣文たのみがれ文  
うきもみのうかうひりせうあとのれあひを  
さふれりやがれやうひりせうたとひりせう  
うめとせうとまとこのま文みめうとま  
はうりゆうとせやうとせやうとせやうとせ  
まきのうかうとせやうとせやうとせやうとせ

せ

むだらかくわからへうらわせぬ  
そくううあまきり文人文もくあてえの日文と  
うめとせうとまとこのま文みめうとま  
うめとせうとまとこのま文みめうとま  
やまかくわくわくとくとくとくとくとくとく  
ひくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
まよまよとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
アモリとくとくとくとくとくとくとくとく  
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ふなとくとくとくとくとくとくとくとくとく

者

白雲















